



北山田小だより

横浜市立北山田小学校 592-0061

夏空二題

副校長 織茂 哲

☆惑星

すいきんちかもくどてんかいめい、だれもが慣れ親しんだ暗記法だと思います。語呂がよく、いまだに抵抗なく蘇ってきます。それが、すいきんちかもくどてんかい？に。

過日、国際天文学連合は、

①太陽を周回する。

②自らの重力で球状となる。

③軌道周辺で、圧倒的に支配的な天体である。 という定義を可決し、この規定に則って、③の条件に合わない冥王星を惑星から外しました。軌道周辺にある海王星が圧倒的に支配的な天体であるからだそうです。

冥王星といえば、ギリシャ神話の冥界の神に因みプルートーと名付けられ、冥土・宇宙の果てという暗黒のイメージですが、何となく気になり妙に親しみを覚える惑星でした。聞くところによると、スーパーマンも関係があるらしいですが。

理科のテストで昨日まで○だったのに、今日は×。正しいとか正しくないとかは、紙一重で正しいということはかなり不透明なのでしょう。

でも、定義や基準やルールにしたがって、イエス・ノーを決定する仕方は一般的です。世の中ほとんどがこのタイプのように思います。スポーツはその最たるものです。私たちに少なからず感動を与えた高校野球しかり、多くの子どもたちが練習成果を発揮した都筑区水泳大会、市水泳大会もしかりです。皆様のご協力が頼りなのですが、東山田中ブロックで共同して進めている学校評価の取り組みや今年度市内全校で急ぎ策定することが求められている学校版マニフェストもしかりです。以前は、学校現場ではあまり多くなかったのですが、MBO（目標による管理）タイプが多くなってきました。

☆月・太陽

「月が見えないんですけど」八月下旬になると、国立天文台への問い合わせが急に増えるのだそうです。夏休みの宿題で月の観察をしようとしたら月が見えない。晴れた空を眺めれば、月はいつでも見られると考えているらしく、月が見えないのは不思議だと思い、おかしいとあわてて電話で問い合わせをしてくる結果のようです。月の満ち欠けについてしっかり指導されていないこともその一因といわれるのでしょうか。また、同じく国立天文台の調査によれば、小学校高学年の三割が、太陽の沈む方角を西と答えられなかったということです。そして、都市部ほど正答率が下がる傾向が見られたということです。都会では、太陽が沈む瞬間の様子を目にすることが難しいのかもしれませんが。月や太陽を含んだ言葉の量から、昔は、存分に味わえたのだと思います。「雨夜の月」のような見えない月をたとえた豊かな表現もあります。曇りのない清さをたとえた「胸の月」は、どうでしょうか。何となくわかり、共感できるのではないのでしょうか。月の名所、夕日の名所は、日本各地にたくさんあります。私が目にした日本海に沈む夕日は、実に雄大で美しかったです。正に、定義ぬき、規定ぬきの真理そのものでした。

考えてみると、冥王星が惑星の範疇から外されたとしてもその存在がなくなったわけではありません。基準のもとで明確に黑白をつけることは大事なことでしょう。でも、子どもたちの育ちを思うと、理屈ぬきの真理に出会うことも重視したい。五感を駆使して、全身で享受することも重視したいと思います。

この夏、子どもたちは、名月・夕日に限らず、数え切れない美しい自然を満喫し、様々な体験を通して感動を覚えたことでしょう。それは、定義や基準なんぞを必要としない真理にふれたことになり、知らぬうちに感性を一層豊かにしたことになります。豊かになった感性は、確実に自分のものにしないともったいないです。前期のまとめの時期、運動会へ精一杯に向かいながらも、本で調べたり話を聞いたりして追体験する学習にも積極的に取り組んでほしいと思います。

地域・保護者の皆様、変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。